

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	LED灯導入の推進や、防犯灯管理団体の負担の軽減を図るため、リース化を利用して防犯灯を一括LED化し、市で管理するための調整等を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	防犯灯管理・LED化推進事業において、防犯灯の現況調査、防犯灯管理団体から市への移管手続きを行う。
②①に基づく取組み結果	防犯灯管理・LED化推進事業に係る公募型プロポーザルを実施し、債務負担行為による賃貸借契約を事業者と締結した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	○防犯灯補助金事業:市内自治会等の防犯灯管理団体 ○防犯協会補助金:鎌ヶ谷市防犯協会	意図(対象をどうするのか)	○防犯灯補助事業:夜間の安全確保及び防犯活動の積極的な展開を図る。 ○防犯協会補助事業:鎌ヶ谷市防犯協会による市域全体の防犯活動の充実を図る。
②事務事業の概要	犯罪を防止し、安全で安心な地域をつくるため、防犯灯の新設や維持管理に係る防犯灯管理団体への補助を行い、鎌ヶ谷市防犯協会との連携を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の刑法犯認知件数は近年減少傾向だったが平成30年は前年から増加しており、今後も防犯対策の強化に、市が積極的に関与する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	防犯灯の新設や維持管理により、犯罪の起こりにくい環境が整備された。 鎌ヶ谷市防犯協会と市民が連携し、自主的な防犯活動が展開され、防犯体制が整備された。 東中沢地区5台、東初富地区5台、道野辺中央地区5台、新鎌ヶ谷駅周辺地区2台の合計17台の防犯カメラの適正な運用を行い、防犯活動団体による防犯カメラの設置に対する補助を3団体に行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	970	759	827	件	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	76,538	80,596	金額(千円)	内容	77,180		
国支出金(千円)			1,739	通信運搬費			
県支出金(千円)	293	1,115	60,029	防犯灯維持管理費補助金	3,250		
市債その他(千円)		600	5,835	防犯協会補助金	1,400		
一般財源(千円)	76,245	78,881	7,117	防犯灯新設事業費補助金	72,530		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	防犯灯及び道路照明灯管理・LED化推進事業において、防犯灯の現況調査、防犯灯管理団体から市への移管手続きを円滑に実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	維持管理費の軽減や環境への配慮から、防犯灯のLED化促進が求められているため、拡充する必要があることから防犯灯管理団体や事業者と円滑な実施に向けた調整を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29→30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民からの情報等により、犯罪が起きやすい状況にある地域などのパトロールを重点的に実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	市内全域のパトロールのほか、犯罪を未然に防ぐため、市民や庁内からの情報提供・依頼等によるパトロール重点活動地域を積極的に指定する。
②①に基づく取り組み結果	夜間防犯パトロールを継続して取り組み、異常発見時の担当部署への連絡、犯罪の恐れのある場合の警察への通報を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内で発生している犯罪	意図(対象をどうするのか)	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現を目指すため、犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪件数を減少させる。
②事務事業の概要	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。パトロール中に不審者等を発見した場合は、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の刑法犯認知件数は近年減少傾向だったが平成30年は前年から増加しており、安全で安心な生活環境を確保するため、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	青色回転灯付防犯パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを実施した。 ・パトロール日数 261日・警察への通報件数 3件						
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠	
	i	刑法犯認知件数	970	759	827	件	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	11,907	11,969	金額(千円)	内容	14,582		
国支出金(千円)			11,969	夜間防犯パトロール委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	11,907	11,969			14,582		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市内の刑法犯認知件数は前年から増加しており、自転車・オートバイの盗難などの件数が依然として多いため、犯罪発生地域へのパトロール重点活動地域の指定などの対策が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民が安全安心な生活を送るためには、市が積極的に防犯活動に係わる必要があるため、精査・検証する必要があることから引き続き犯罪発生状況などの情報収集を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	12,000	12,000	当初	12,000	H29からの繰越
				H29→30繰越		
③達成状況	完了			補正		11,969
④未完了・非着手の理由				流用・充当		
令和元年度への繰越額(単位:千円)						0